

(公財) いのちの森文化財団
水輪ナチュラルファーム の皆様

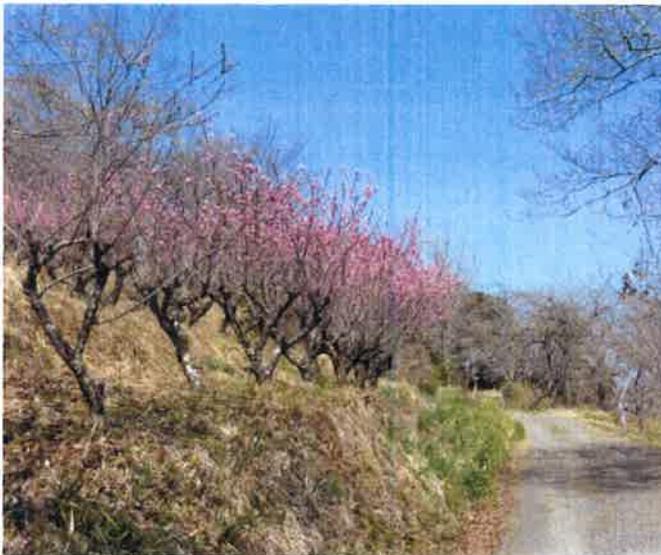
新鮮なお野菜のご支援ありがとうございます。

塩澤様ご夫妻をはじめ水輪ナチュラルファームの皆様も、お変わりなくお忙しくご活躍のことと存じます。

今年も、皆様が毎日丹精込めて育ててくださるお野菜を、子どもたちのために贈っていただきまして感謝申し上げます。

南相馬市原町区では、除染も一定の予定が終了(一昨日のニュースで、除染終了と報告のあった場所で、除染されていなかった部分があったことが判明。)したということで、町中に点在していた除染作業員のための宿泊用仮設宿舍も、多くが取り壊されました。町のスーパーやコンビニエンスストア等でも、除染作業員の方々の姿を見かけるのは少なくなり、朝夕の道路の交通渋滞なども、ピーク時に比べて緩和されたように感じます。

放射線量は、自然減衰による低下と、除染したことによって低くなりました。しかし、場所によっては、除染をした後でもミニホットスポットがまだあります。



当園の目の前にある県立公園の里山です。震災前は一年中、園のみんなで行きかけていた憩いの場所です。毎年春には花々が咲き、緊張している子どもたちと、疲れている(?)先生方を癒してくれていました。昨年夏に、一部分(県で設置したあずまやがあるまわりの部分のみ)が除染されました。花桃や雪柳が咲く丘の北斜面で放射線量を測定すると、約 $2\ \mu\text{Sv/h}$ 近くあるホットスポットがまだ存在します。(原発事故前は $0.04 \sim 0.05\ \mu\text{Sv/h}$) 一帯は全体的に下がりましたが、子どもたちを遊びに連れて行く場所になるにはまだまだ時間が必要です。

右上の写真は、今年4月5日に測定したときのものです。

除染に関する「市民相談窓口センター」(スーパーゼネコン各社が集まって結成)も今年3月いっぱい閉鎖されて、放射能汚染に関しては一段落したかのような風潮があります。

東京電力福島第一原子力発電所に近い20キロメートル圏内の他町でも、放射線量の高い一部を除いて避難を解除して、住民の帰還を促しています。しかし、先駆けて避難が解除になった南相馬市小高区の例を見ても、帰還がなかなか進んでいないのが現状です。特に若い世代の人々の帰還は難しいようで、自分が生まれ育った故郷に戻りたい気持ちがあっても、解除になったことが安心して住める町になったということとは別のことで、不安が払しょくできずに躊躇う人や避難先での生活が落ち着いたなどで、戻れない事情はそれぞれにあって、どちらを選択しても皆さん苦渋の決断のようです。感謝して。

2017年7月5日

原町聖愛こども園 遠藤美保子

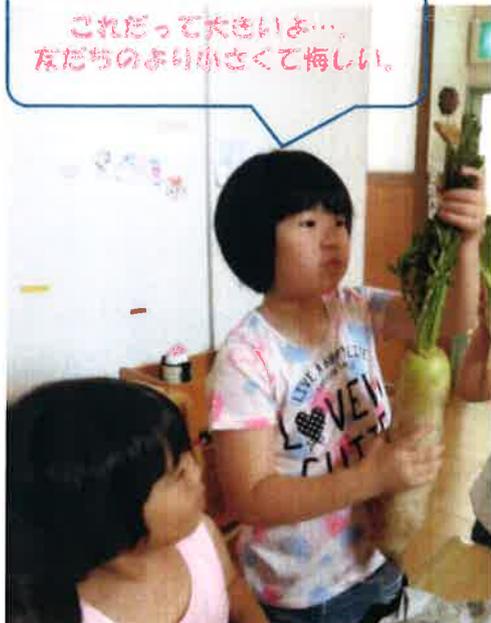


新鮮で綺麗な大根の葉は、油炒めにしてふりかけにしてもらいました。子どもたちに大人気でお代わり続出！大人も納得のうまさでした。

たくさん並んだ大きなかぶ。「一番大きいのはどれでしょう？」いっせいのセツ でみんな自分が思ったかぶを指さしたり、「おおきなかぶ」のお話を思い出したりしながら並べていました。



これだって大きいよ…
なだちのより小さくて悔しい。



片手で持ってみたら重くて震え出しました。「おっきいから おもい！」